

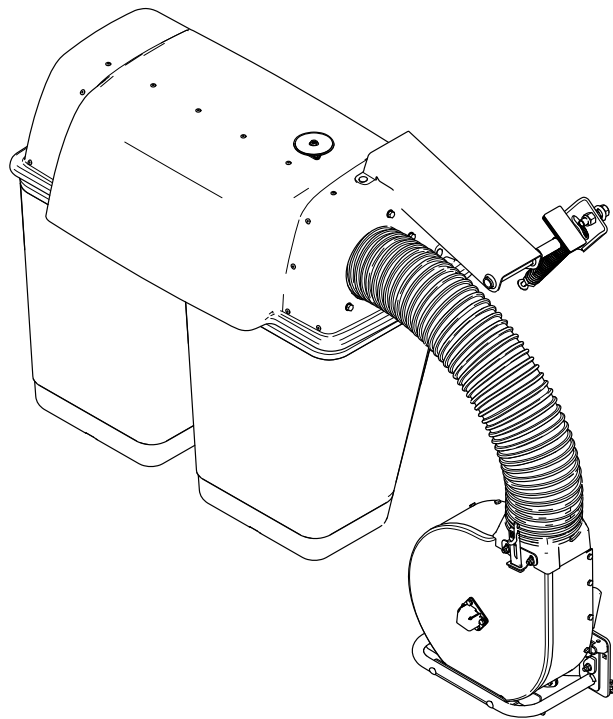


Count on it.

オペレーターズマニキュアル

ツインバガー GrandStand® モア

モデル番号 78524—シリアル番号 400000000 以上



注 このキットと同時に取り付けを必要とするキットがあります。
必要となるキットについてはトロ社代理店にご連絡ください。
より詳しい情報はこちら www.toro.com。



▲ 警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとしております。

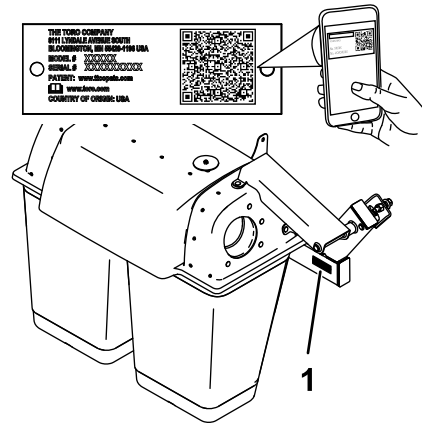


図 2

g256118

1. バガーの銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号 図 3 を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



図 3

g000502

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要**は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

製品の安全や取り扱い講習、アクセサリなどに関する情報、代理店についての情報の入手、お買い上げ製品の登録などをネットで行っていただくことができます www.Toro.com

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

重要シリアル番号デカルについている QR コード無い場合もありますをモバイル機器でスキャンすると、製品保証、パーツその他の製品情報にアクセスできます。

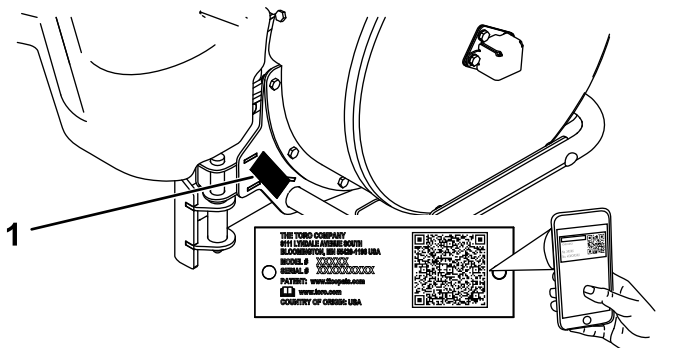


図 1

g256117

1. ブロアの銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 安全について | 3 |
| 安全ラベルと指示ラベル | 4 |
| 組み立て | 6 |
| 1 マシンの準備を行う | 7 |
| 2 E-Z Vac ブロア駆動キットを取り付ける | 7 |
| 3 ブロアアセンブリ、ベルト、ベルトカバーを取り付ける | 7 |
| 4 バガー強化キットを取り付けるオプション | 8 |
| 5 ブラケットを取り付ける | 8 |
| 6 バガーフレームを取り付ける | 11 |
| 7 バッグを取り付ける | 12 |
| 8 バガーチューブを取り付ける | 12 |
| 9 ウェイトを取り付ける | 14 |
| 運転操作 | 14 |
| 運転時の安全確保 | 14 |
| フローバッフルの位置調整を行う | 15 |
| バガーの使用方法 | 15 |
| 集草インジケータの使い方 | 15 |
| 運転のヒント | 16 |
| 集草バッグにたまった刈かすを捨てる | 17 |
| バガーが詰まった場合の対処 | 17 |
| バガーの取り外し | 17 |
| 移動走行を行うとき | 18 |
| 保守 | 19 |
| 推奨される定期整備作業 | 19 |
| バガーとバッグの清掃 | 19 |
| バガーベルトの点検 | 19 |
| バガーベルトの交換 | 19 |
| バガーの点検 | 20 |
| 刈り込みブレードの点検 | 20 |
| 刈り込みブレードの取り付け | 20 |
| 保管 | 21 |
| 故障探究 | 22 |

安全について

▲ 警告

人身事故や電気系統の破損を防止するために以下の注意を厳守すること

- このアタッチメントを使用する前に、必ず刈り込み装置のオペレーターズマニュアルをよく読み、操作方法と安全上の注意を十分に理解する。
- エンジン作動中には絶対に、排出チューブや、バガーフードやシュートを取り外さない。
- バガーが詰まった場合には、かならずエンジンを停止させてキーを抜き取り、機械の可動部がすべて完全に停止してから詰まりの解消作業に掛かる。
- 絶対に、エンジンを掛けたままで整備や修理を行わない。

▲ 警告

バガーが作動中はブロアが回転するので、これに手が触れると大けがをする可能性がある。

- ブロアの調整、清掃、修理、点検、およびシュートの詰まりを取り除く前には、必ずエンジンを停止させてキーを抜き取り、機械の可動部がすべて完全に停止してから作業に掛かること。
- シュートやブロアチューブの詰まりの除去には必ず棒などを使用し、決して素手で行わない。
- 顔や手足や衣服を可動部に近づけないように十分注意し、カバーなどが付いていても過信しない。

▲ 警告

刈りかす、木の枝などは燃える可能性がある。エンジン付近で火災が起こると人身事故や物損事故になる恐れがある。

- エンジンやマフラーの付近にごみを貯めないように注意すること。
- バガーのカバーを開く時に、内部のごみをエンジンやマフラーの上に落とさないように注意すること。
- 機械の格納はエンジンが十分に冷えてから行う。

以下の注意事項は、トロの芝刈り機を初めとする製品を安全に使用していただくために必ずお守りいただきたい事項です。

- 各部の操作方法や本機の正しい使用方法、警告表示などに十分慣れ、安全に運転できるようになりましょう。

- 集草袋などのアタッチメントを使用する際には、特別の注意が必要です。アタッチメントによってマシンの運転特性や安定性が変わる場合がありますからご注意ください。
- ウェイトの増減については、機会本体のオペレーターズマニュアルを参照。
- 急斜面ではバガーを使用しないこと。集草装置が重くなるとマシンを制御できなくなったり転倒したりする危険があります。
- 斜面では必ず減速し安全に十分注意して運転してください。法面の刈り込みは横断しながら行ってください。ターフの状態は、マシンの安定性に大きな影響を与えます。段差の近くでの運転には特に注意してください。
- 斜面では動作も運転操作もゆっくりと行うことが原則です。急旋回したり不意に速度や方向を変えたりしないでください。
- 集草装置をとりつけることによって右側の視界が制限される場合があります。バックする際には、安全に十分に注意してください。
- トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- 絶対に、デフレクタを上げたまま、取り外したまま、あるいは改造したりして刈り込みをしないでください。集草装置を使用するときは別。
- 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたままで調整を行うのは避けてください。
- どんな場合であれバッグを空にする時や詰まりを除去する時も含みます、運転位置を離れる時には、平らな場所に停車し、駆動装置を解除し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取ってください。
- 集草装置、デフレクタ、ガード類を取り付けられない状態の運転は絶対にしないでください。
- 集草バスケットを空にする時やシュートの詰まりを除去する時には、エンジンを停止させてキーを抜き取ってください。
- 集草装置の中に、長期間にわたって刈かすを放置しないでください。
- 集草装置の各部が消耗や劣化してくると、内部の可動部が露出したり、内部に吸い込まれたものが飛び出してきて当たる危険があります。各部を頻繁に点検し、必要に応じてメーカーが推奨する交換部品と交換するようにしてください。

安全ラベルと指示ラベル



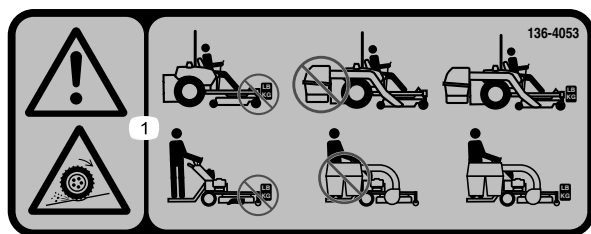
危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。

▲ WARNING: Cancer and Reproductive Harm - www.P65Warnings.ca.gov.
For more information, please visit www.ttcoCAProp65.com

133-4051

decal133-8061

133-8061



decal136-4053

136-4053

1. 警告走行できなくなる危険。カウンタバランスウェイトのみで運転しないこと。E-Z Vac のみを取り付けて状態で運転しないこと。必ず E-Z Vac とカウンタバランスウェイトの両方を取り付けて運転すること。



136-4087

decal136-4087

1. 警告 オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 警告 聴覚保護具を着用のこと。
3. 異物が飛び出す危険ブローを作動させる前に必ず集草装置全体を確実に取り付け、ラッチで固定すること。
4. インペラによる切傷や手足の切断の危険 可動部に近づかないこと 使用時にはすべての安全カバー類を正しく取り付けておくこと。
5. インペラによる手足や指の切断の危険 PTOを解除し、エンジンキーを抜き取り、各部が完全に停止するまで待つこと。
6. 警告 走行できなくなる危険。カウンタバランスウェイトのみで運転しないこと。E-Z Vacのみを取り付けて状態で運転しないこと。必ず E-Z Vac とカウンタバランスウェイトの両方を取り付けて運転すること。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

| 手順 | 内容 | 数量 | 用途 |
|----|-----------------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | 必要なパーツはありません。 | — | マシンの準備を行う。 |
| 2 | E-Z Vac ブロア駆動キット別売 | 1 | E-Z Vac ブロア駆動キット別売を取り付けます。 |
| 3 | ブロアアセンブリブロアドライブキットより | 1 | ブロアアセンブリ、ベルト、ベルトカバーを取り付けます。 |
| | ベルトカバーブロアドライブキットより | 1 | |
| | ベルトカバーブロアドライブキットより | 1 | |
| | ベルトカバーブロアドライブキットより | 1 | |
| 4 | バガー強化キット | 1 | バガー強化キットを取り付けますオプション。 |
| 5 | 前取り付けブラケット | 1 | ブラケットを取り付けます。 |
| | 下部マウントブラケット | 1 | |
| | 後取り付けブラケット | 1 | |
| | 右取り付けブラケット | 1 | |
| | 平ワッシャ | 2 | |
| | ボルト $\frac{3}{8}$ " x 4" | 2 | |
| | キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1" | 1 | |
| | ナット $\frac{3}{8}$ " | 1 | |
| 6 | バガーフレームアセンブリ | 1 | バガーフレームを取りつけます。 |
| | クレビスピン | 2 | |
| | ヘアピンコッター | 3 | |
| | スラストワッシャ | 1 | |
| | ナット $\frac{3}{8}$ " | 1 | |
| | キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1" | 1 | |
| 7 | バッグ | 2 | バッグを取り付けます。 |
| 8 | ホースブロアドライブキットより | 1 | バガーホースを取りつける。 |
| | ホースクランプブロアドライブキットより | 1 | |
| 9 | ウェイト | 1 | ウェイトを取り付けます。 |
| | ボルト | 1 | |
| | 長い U ボルト52" デッキ付きの Multi Force™のみ | 1 | |
| | ロックナット $\frac{1}{2}$ " | 2 | |

重要このアタッチメントにはドライブツィールまたはキャスターツィールを使わないこと。マシンにドライブツィールまたはキャスターツィールが装着されている場合は、工場出荷時の空気入りドライブタイヤ、または空気入りまたは半空気入りキャスタータイヤに交換すること。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

注 ローラストライパキットが装着されている場合には取り外しておいてください。

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部分が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. デッキの破損や曲がりをすべて修理し、なくなっている部品をすべて取り付ける。
4. 機体をきれいに洗浄する。特に、取り付け位置となる機体後部に汚れがないようにする。

2

E-Z Vac ブロア駆動キットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|--------------------|
| 1 | E-Z Vac ブロア駆動キット別売 |
|---|--------------------|

手順

キットの 取り付け要領書を参照。

3

ブロアアセンブリ、ベルト、ベルトカバーを取り付ける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|----------------------|
| 1 | ブロアアセンブリブロードライブキットより |
| 1 | ベルトカバーブロードライブキットより |
| 1 | ベルトカバーブロードライブキットより |
| 1 | ベルトカバーブロードライブキットより |

手順

1. 刈り込みデッキを、一番低い設定位置まで降下させる。
2. 図4のように、ブロアアセンブリから出ているピンをブロアの取り付けブラケットに挿入する。ブロアはブロアマウントにラッチで固定しないこと。

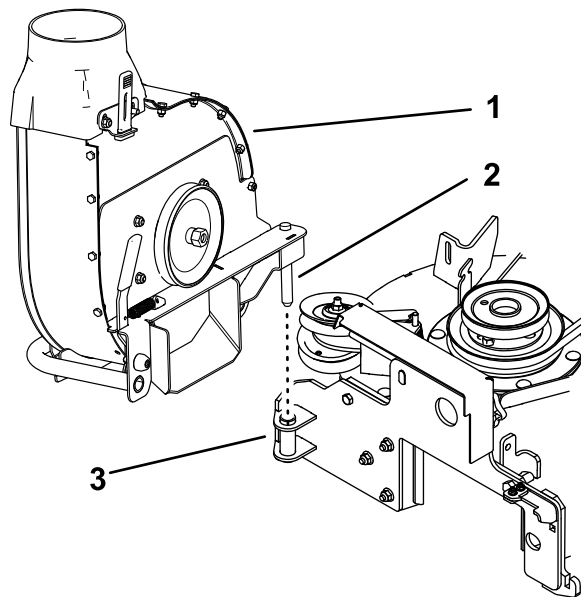


図 4

g274289

1. ブロアアセンブリ
2. ピン
3. ここにピンを入れる。

3. 図5と図6のように、プーリとアイドラアセンブリにベルトを取り付ける。

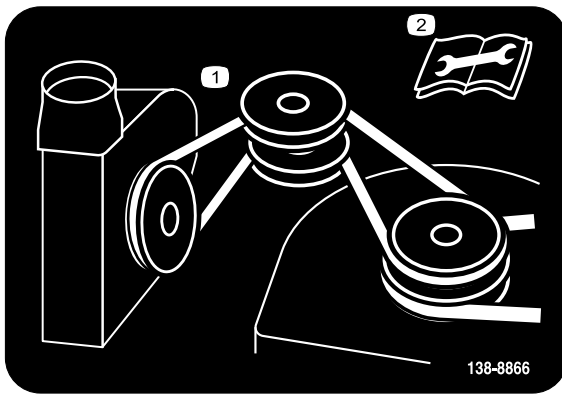


図 5

decal138-8866

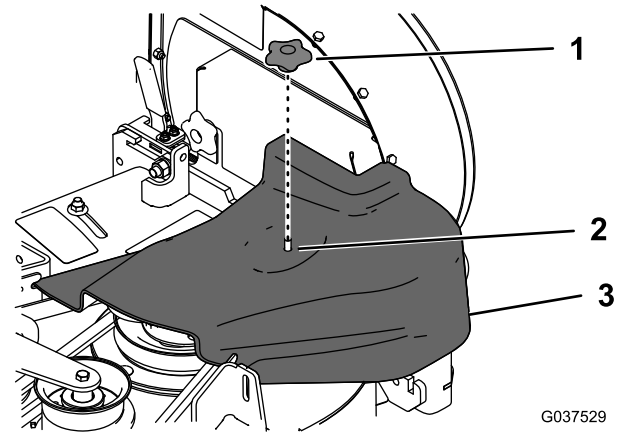


図 7

G037529

g037529

- 1. ノブ
- 2. アイドラねじ
- 3. ベルトカバー

注 ブロアアセンブリを開ける時は、必ず最初にベルトカバーを開けてください。

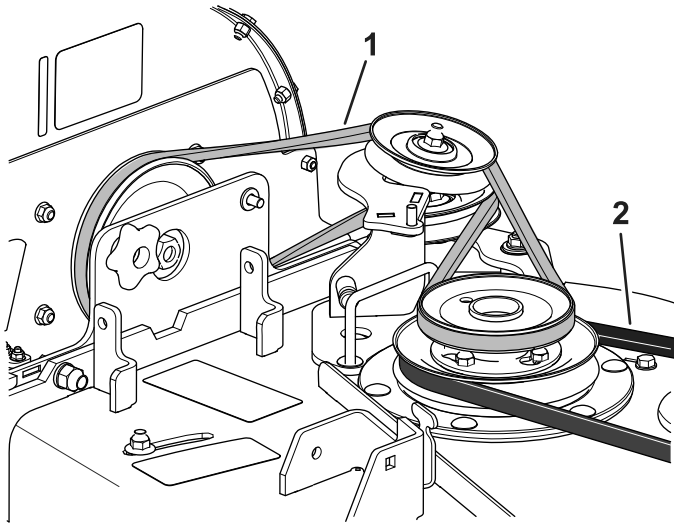


図 6

g293335

- 1. ブロアベルト
- 2. 刈り込みデッキ用ベルト

4. ブロアアセンブリを閉じて、ラッチがきちんと掛かるかどうか確認する。
5. ベルトカバーを取り付け、アイドラのねじにノブを締め付けて固定する [図 7](#)。

4

バガー強化キットを取り付けるオプション

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|----------|
| 1 | バガー強化キット |
|---|----------|

手順

キットの [取り付け要領書](#) を参照。

5

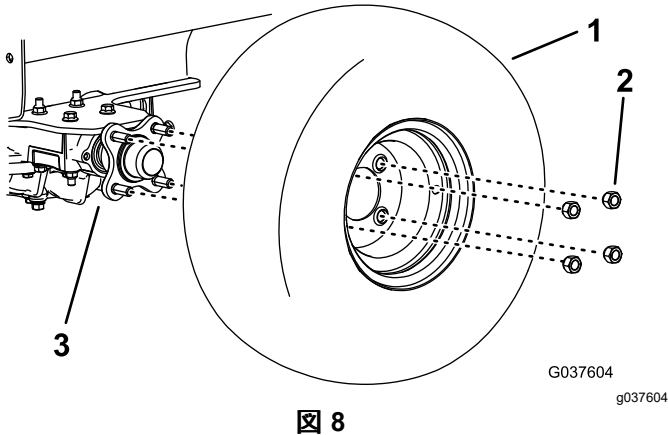
ブラケットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|--|
| 1 | 前取り付けブラケット |
| 1 | 下部マウントブラケット |
| 1 | 後取り付けブラケット |
| 1 | 右取り付けブラケット |
| 2 | 平ワッシャ |
| 2 | ボルト $\frac{3}{8}$ " x 4" |
| 1 | キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1" |
| 1 | ナット $\frac{3}{8}$ " |
| 2 | キャリッジボルト $\frac{1}{4}$ " x $\frac{5}{8}$ " |
| 2 | ナット $\frac{1}{4}$ " |

手順

1. 燃料タンクを取り外す。車両のオペレーターズマニュアルを参照。
2. 機体の右側後部をジャッキアップして右タイヤに重量かからないようにする。
3. 右タイヤを外す [図 8](#)。



1. 右タイヤ
2. ラグナット
3. 右トランスアクスル

4. 運転台を上げる。
5. 右側右トランスアクスルから、リアボルト2本とナット2個を外す [図 9](#)。ナットは捨てないこと。

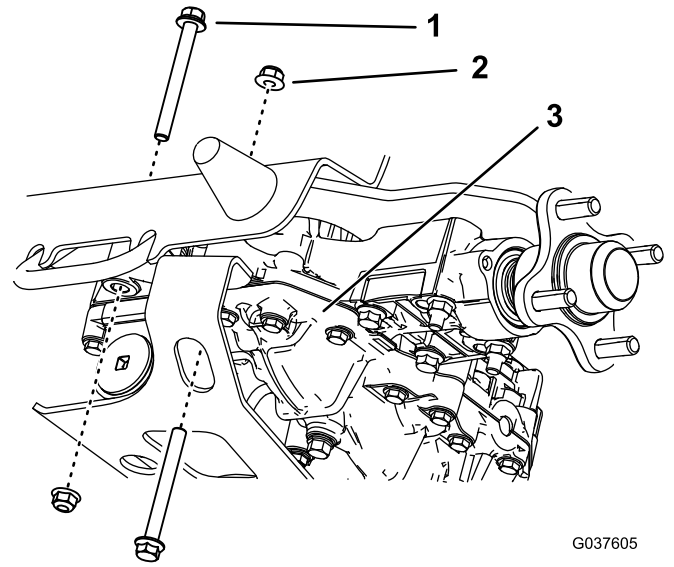


図 9

1. ボルト
2. ナット
3. 右トランスアクスル

6. 下側ブラケットをトランスミッションに取り付ける先ほど外したナット2個、平ワッシャ2枚、ボルト $\frac{3}{8}$ " x 4"2本を使用して [図 10](#) のように取り付ける。

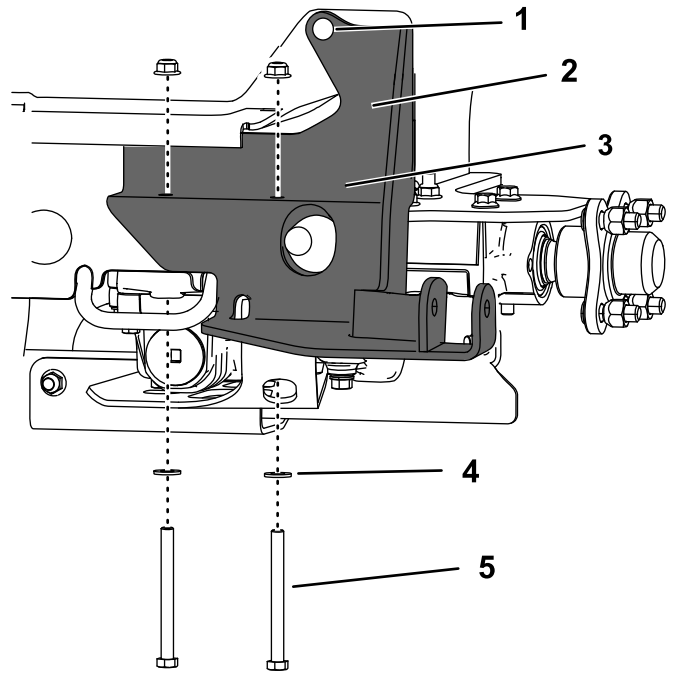


図 10

1. キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"と ナット $\frac{3}{8}$ "
2. ナット
3. 下部マウントブラケット
4. 平ワッシャ
5. ボルト $\frac{3}{8}$ " x 4"

7. ブラケットの上部を固定するキャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"1本と、ナット $\frac{3}{8}$ "1個を使用する。

8. ボルトは37-45 N·m 3.7-4.6 kg·m = 27-33 ft-lbにトルク締めします。
9. 右側取り付けブラケットから前ボルト2本とナット2個を外し、右側タワーパネルから前ボルト2本とナット2個を外す [図 11](#)。

重要 ボルトやナットを外す際に、フレーム内側のファンシュラウドがトランスアクスルに落下しないように注意する。

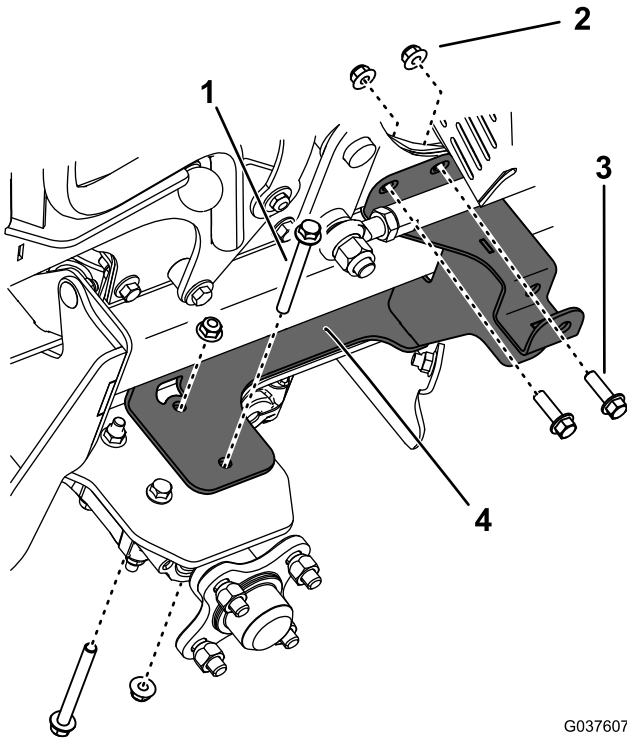
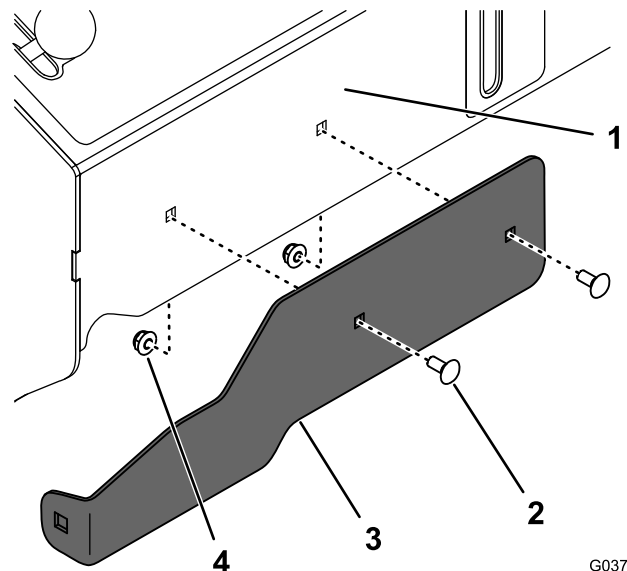


図 11

G037607
g037607

1. トランスミッションのボルト
2. ナット
3. タワーパネルのボルト
4. 右側取り付けブラケット



G037608
g037608

図 12

1. コントロールタワーの前側
2. キャリッジボルト 1/4" x 5/8"
3. 前取り付けブラケット
4. ナット 1/4"

12. 運転台を降ろす。
13. 右タイヤを取り付け、ラグナットを 115-142 N·m 11.8-14.5 kg·m = 85-105 ft-lbにトルク締めする [図 8](#)。

10. ステップ9で外したナットとボルトを使用して、右側取り付けブラケットとファンフラウドをフレームに固定する [図 11](#)。ボルトは 37-45 N·m 3.7-4.6 kg·m = 27-33 ft-lbにトルク締めします。
11. コントロールタワーの前部に前側取り付けブラケットを仮止めするキャリッジボルト 1/4" x 5/8" 2本と、ナット 1/4" 2本を使用して [図 12](#) のように取り付ける。

6

バギーフレームを取りつける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | バギーフレームアセンブリ |
| 2 | クレビスピン |
| 3 | ヘアピンコッター |
| 1 | スラストワッシャ |
| 1 | ナット $\frac{3}{8}$ " |
| 1 | キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1" |

手順

- 誰かに手伝ってもらってバギーフレームを持ち上げ、フレームの後部下側を、下側取り付けブラケットに固定するクレビスピンとヘアピンコッターを使用する [図 13](#)。

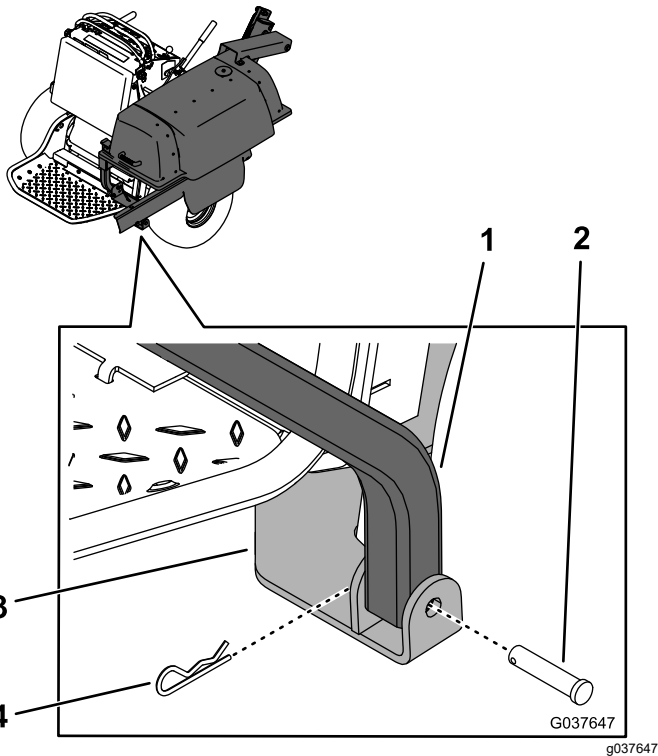


図 13

1. バギーのフレーム
2. クレビスピン
3. 下部マウントブラケット
4. ヘアピンコッター

2. 後取り付けブラケットのピンにフレームを固定するスラストワッシャとヘアピンコッターを使用する [図 14](#)。

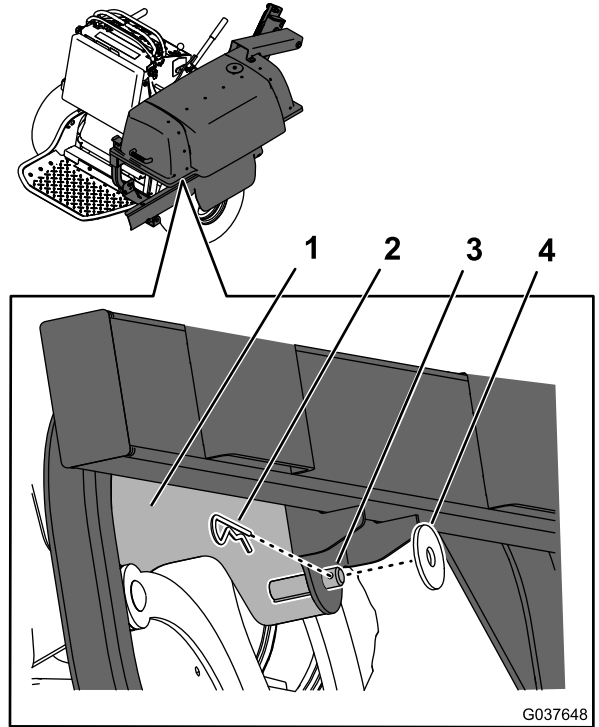


図 14

1. 後取り付けブラケット
2. ヘアピンコッター
3. ピンブラケットの一部
4. スラストワッシャ

3. バギーフレームの底部前側を、トランスミッションの取り付けブラケットに固定するクレビスピンとヘアピンコッターを使用する [図 15](#)。

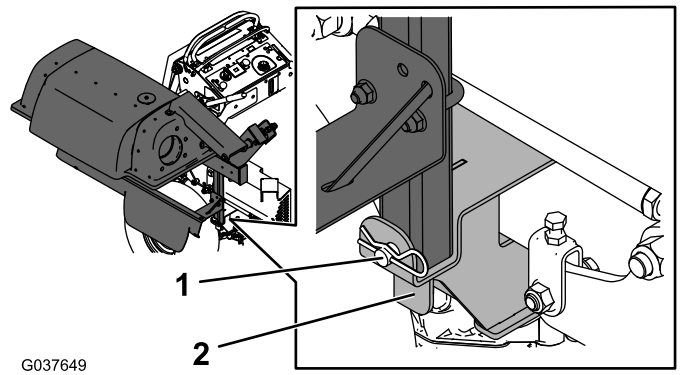
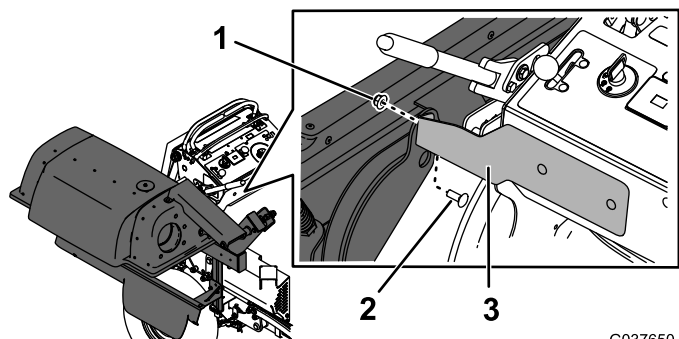


図 15

1. クレビスピンとヘアピンコッター取り付け状態
2. トランスミッションの取り付けブラケット

4. バガーフレームを、前取り付けブラケットに固定するキャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"とナット $\frac{3}{8}$ "で図 16のように取り付ける。



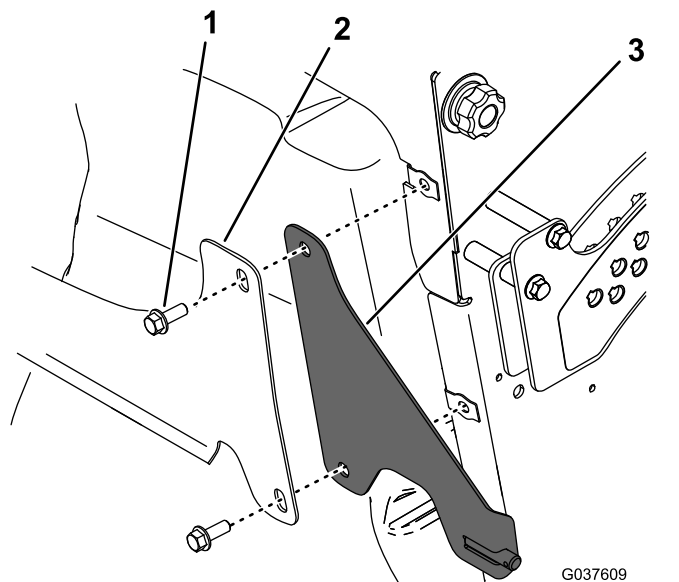
G037650
g037650

図 16

1. ナット $\frac{3}{8}$ "
2. キャリッジボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"
3. 前取り付けブラケット

5. バガーフレームと前側取り付けブラケットのナットを締めつける。
6. 燃料タンクを取り付ける。車両のオペレーターズマニュアルを参照。

注 燃料タンクブラケットを取り付ける時に、コントロールタワーと燃料タンクブラケットの間に、後取り付けブラケットを取り付けてください。



G037609
g037609

図 17

1. ボルト
2. 燃料タンクのブラケット
3. 後取り付けブラケット

7. クッションを上げる。

7

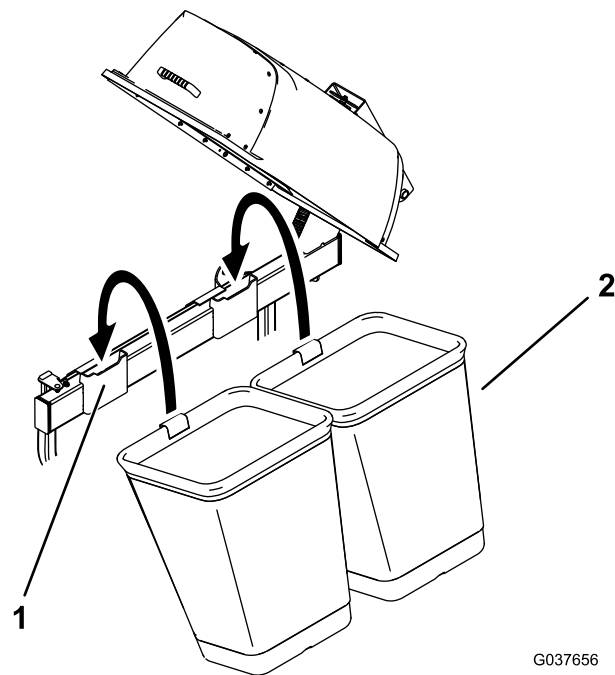
バッグを取り付ける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|-----|
| 2 | バッグ |
|---|-----|

手順

1. ラッチを外してフードアセンブリを開ける。
2. バッグマウントにバッグを取り付ける図 18。



G037656
g037656

図 18

1. バッグマウント
2. バッグ

3. フードアセンブリを閉じてラッチを掛ける。

8

バガーチューブを取りつける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|----------------------|
| 1 | ホースブロードドライブキットより |
| 1 | ホースクランプブロードドライブキットより |

手順

1. ホースの一端部を、2-3 回転フードにねじ込む [図 19](#)。

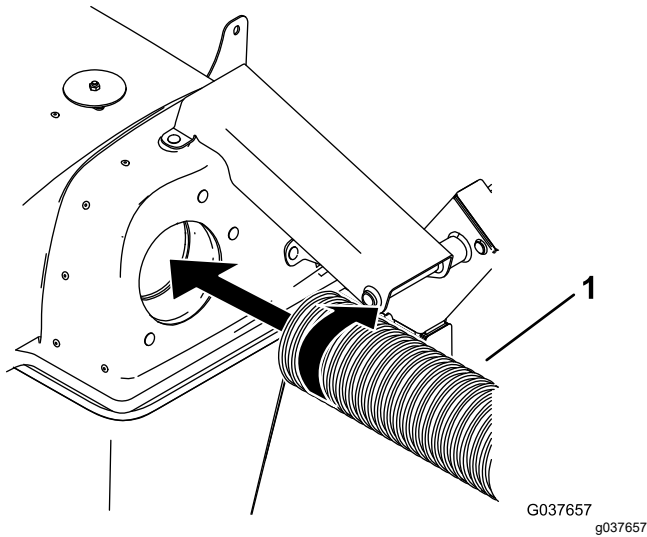


図 19

1. ホース

2. 新しいホースの他方の端部にホースクランプを2-3 回ねじ込む [図 20](#)。

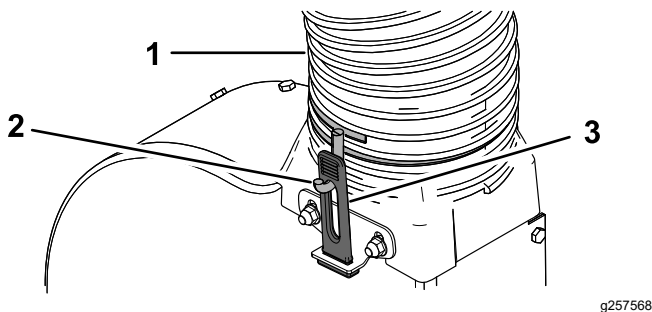


図 20

1. ホース
2. ホースクランプ
3. ゴム製のラッチ

3. ブロアのトランジションにホースを取り付けるホースがフードから90°程度の曲がりを作るように取り付ける。必要に応じてホースクランプのフックの向きを調整してゴム製ラッチに合わせ、ラッチをフックに引っ掛けてホースを固定する [図 20](#)。

注 ラッチがしっかりホースを固定していることを確認する。ラッチがゆるい場合にはクランプをさらに奥に移動させて調整する。

9

ウェイトを取り付ける

この作業に必要なパーツ

| | |
|---|---------------------------------|
| 1 | ウェイト |
| 1 | ボルト |
| 1 | 長いUボルト52" デッキ付きの Multi Force™のみ |
| 2 | ロックナット½" |

手順

ウェイトを、左側キャストに取り付けるUボルト、ロックナット½"2個で図 21のように取り付ける。

注 52" デッキ付きのマルチフォースには、長いUボルトを使用してください。ウェイトはフレーム上部に載せません 図 22。

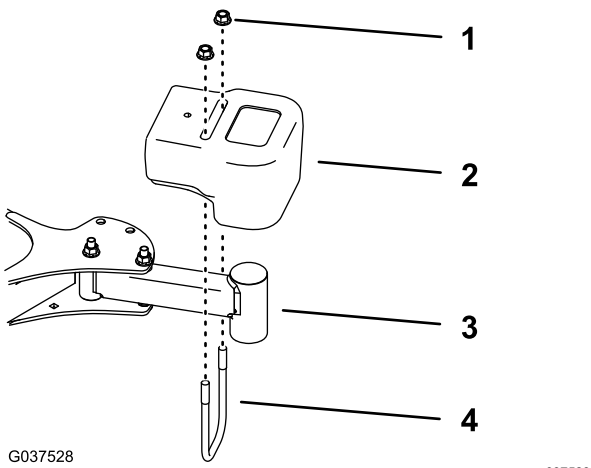


図 21

1. ロックナット½"2個
2. 重量
3. キャスタホイールは図示せず
4. ボルト

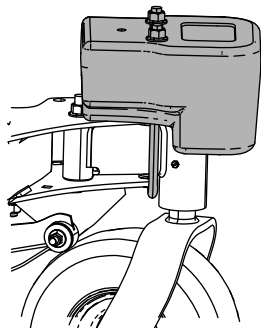


図 22

運転操作

運転時の安全確保

- このアタッチメントを使用する前に、必ず刈り込み装置のオペレーターズマニュアルをよく読み、操作方法と安全上の注意を十分に理解してください。
- エンジン作動中には絶対にバガーやバガーチューブを取り外さない。
- バガーが詰まった場合には、かならずエンジンを停止させてキーを抜き取り、機械の可動部がすべて完全に停止してから詰まりの解消作業に掛かる。
- 絶対に、エンジンを掛けたままで整備や修理を行わない。
- 駐車ブレーキを掛ける。

▲ 警告

デフレクタ、バガーチューブ、あるいはバガーアセンブリを取り付けずに刈り込み作業を行うことは、自分自身や周囲の人間を回転刃やそれに飛ばされてくる異物の危険にさらす危険行為であることを理解する。回転刃やインペラに触れたり、回転刃に跳ね飛ばされたものに当たると大けがをしたり最悪の場合には死亡事故となる。

- バガーを取り外した場合には、必ずデフレクタを取り付け、側方排出モードにしてからマシンを使用する。
- デフレクタが万一破損しているのを発見した場合には直ちに交換すること。デフレクタは刈かすなどの排出方向をターフに向けるための部品である。
- 機械の下には絶対に手足を差し入れないこと。
- 刈り込みデッキの排出部や刈り込みブレードの近くを清掃する時には必ずPTOを解除OFFし、エンジンのキーを抜き取る。また、キーを抜き取ったら、点火プラグの高圧コードも外しておく。
- プロアハウジングが詰まった場合にも、必ずエンジンを停止させてから詰まりの解消を行う。

▲ 注意

置きっぱなしの機械を子供などがいたずらで運転すると大きな事故になる恐れがある。

機械から離れる時には、たとえ数分間であっても必ず駐車ブレーキを掛け、キーを抜き取る。

フローバツフルの位置調整を行う

バツフルを集草用のC位置前位置に調整する。詳細については、マシンのオペレーターズマニュアル参照。

バツフルがプロアハウジングに接触していないことを確認する。

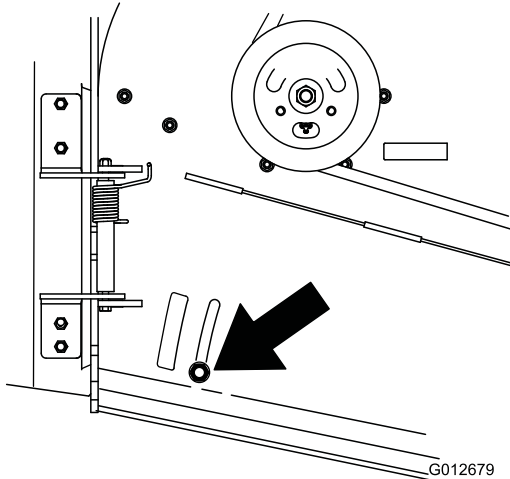


図 23

集草インジケータの使い方

バガーフードの上部にある集草インジケータは、集草中に回転します 図 24。バッグが一杯になると回転しなくなります。

集草インジケータのインペラに刈りかすなどが溜まらないように清掃してください。

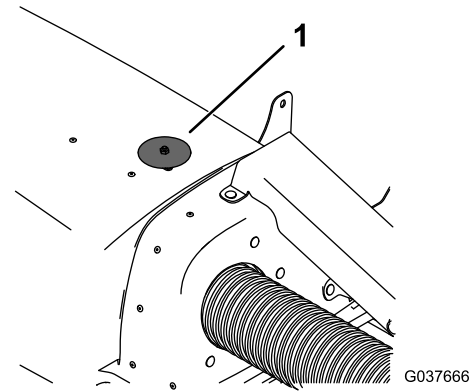


図 24

1. 集草インジケータ

バガーの使用方法

トラクションユニットで PTO を接続するとプロアがスタートし、接続を解除すると停止します。

乾燥期に集草するときは、デッキを下げた吹き出しを制限してください。

刈り込み速度が速すぎるあるいはエンジン速度が遅すぎるとバガーが詰まってしまう可能性があります。法面では、刈り込み速度を少し遅くしたほうが良い結果がでる場合があります。可能な場合は必ず上から下へ向かって刈ってください。

▲ 注意

バガーに刈りかすがたまるにつれてマシンの後部が重くなってきます。法面で上向きに停止したあとに急発進すると、機体の前部が浮き上がってハンドルが効かなくなる危険があります。

- 法面では急停止・急発進しないでください。登り発進を避けるようにしましょう。
- 上り坂で停止してしまった場合には、PTOを解除してください。そしてそのまま、ゆっくりと、バックで法面を下がってください。
- 法面では速度を変えたり停止したりしないでください。

運転のヒント

マシンのサイズ

このアタッチメントを取り付けると、刈り込み機械の長さ、幅、ともに大きくなることを十分認識しておいてください。狭い場所で急な旋回をしたりすると、アタッチメントや周囲の事物を破損させる可能性があります。

トリミング

トリミングは、デッキの左側のみで行ってください。デッキの右側でトリミングすると、バガーのシュートや排出口を破損させる可能性があります。

刈高

最適な条件で集草できるように、デッキの刈高設定は51-76 mm 以上にしないこと、あるいは、一回の刈り取り長さが草丈の 1/3 以上にならないようにすることどちらか小さい方の条件を採用することをお奨めします。これ以上の刈り取りを行うとバキューム効率が悪くなります。

刈り込み回数頻度

刈り込み作業はあまり日にちをあけずに特に成長期行いましょう。草が伸びすぎてしまった場合には2度に分けて刈り込みを行う必要があります [草丈が長い場合の集草 \(ページ 16\)](#)を参照。

刈り込みのテクニック

刈り上がりをきれいに見せるためには、刈幅がすこし重なるようにして刈り込んで行くのがベストです。こうするとエンジンの負担も軽くなり、ブロアアセンブリやチューブが詰まるようなトラブルも少なくなります。

草丈が長い場合の集草

草が伸びすぎてしまった場合や、芝生がぬれている場合には、通常よりも高い刈高で刈り込みを行って集草してください。そして、次に通常の刈高にセットしてもう一度刈り込み・集草してください。

非常に草丈が高くなると刈かすが非常に重くなり、ブロアの力でバガーに吹き込みできなくなります。こうなるとチューブやブロアが詰まりを起こします。これを避けるためには、まず高めの刈高で一度刈り込みを行い、次に通常の刈高に戻してもう一度刈り込むのがよいのです。

落ち葉の清掃

落ち葉を清掃する場合には、刈高の設定を草丈とできるだけ同じにして作業をおこなうと、最もきれいに仕上がります。ただし、乾燥して埃っぽい時期には、刈高を草丈よりも低くして吹き出しを制限するほうが良い場合があります。落ち葉を事前にマルチングしておくと、より効率よく清掃できます。

草がぬれている場合の集草

できれば、ぬれた芝の集草はやめ、芝が乾いているときに刈り込んでください。ぬれた芝草は詰まりを起こしがちです。

詰まりトラブルを減らすには

これを避けるためには、まず高めの刈高で、刈り込み速度を落として一度刈り込みを行い、次に通常の刈高に戻してもう一度刈り込むのがよいのです。

詰まりの兆候を知る

集草しながらの刈り込みでも、デッキの前部から少しの量の刈かすが吹き出してくるのが普通です。この吹き出し量が多い場合には、集草バッグが一杯であるか、ブロアまたはチューブが詰まっている可能性があります。

集草ブレード

ほとんどの場合には、標準のハイリフトブレードが集草に最も相応しいブレードです。

乾いた状態での集草には、トロのアトミックブレードをお使いください。乾燥してほこりっぽい条件の場合には、ミディアムリフトまたはローリフトのブレードを使うとほこりの舞い上がりを抑制しながらうまく集草することができます。

どのブレードを使うのが最も適切かについては、弊社代理店にご相談ください。

縁石の乗り越えとトラックなどへの積み込み

縁石の乗り越えやトラックなどへの積み込みを行う場合には、必ずデッキを一番高い位置にセットしてください。デッキを低い位置にセットしたままで縁石の乗り越え等を行うと、デッキを破損する恐れがあります。縁石の高さが 15.2cm を越える場合には、デッキを最高位置にした状態で縁石に対して鋭角に乗り越えを行ってください。トラックやトレーラに積み込む場合には十分に注意して作業を行ってください。

集草バッグにたまった刈かすを捨てる

刈かすが入った集草バッグは非常に重い。刈かすが入った集草バッグの取り扱いには十分注意すること。

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. バガーのラッチを外す。
4. バガーフードを開ける。
5. 刈かすをバッグの中にしっかり押し込む。両手を使ってバッグを引っ張り上げバガーブラケットから外す。
6. バッグの下についている取っ手を握り、バッグを上下逆さまにして刈かすを捨てる [図 25](#)。

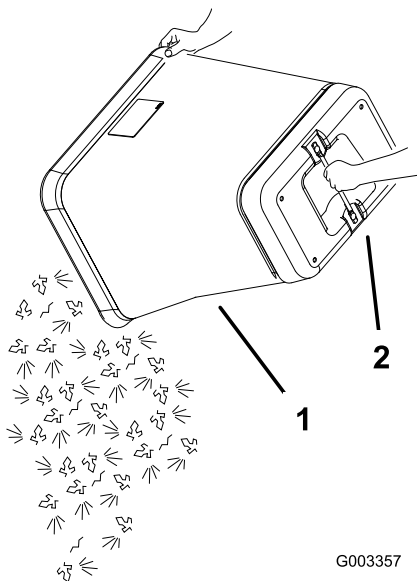


図 25

1. バッグ
2. 下部の取っ手

7. もう一方のバッグにも同じ作業をする。
8. バッグのタブをバガーサポートのフレームのノッチに掛ける。両方のバッグについてこれを行う。
9. バガーフードを下ろす。
10. バガーフードにラッチを掛ける。

バガーが詰まった場合の対処

警告

バガーが作動中はフロアが回転するので、これに手が触れると大けがをする可能性がある。

- フロアの調整、清掃、修理、点検、およびシュートの詰まりを取り除く前には、必ずエンジンを停止させ、機械の可動部がすべて完全に停止してから作業に掛かること。キーを抜き取る。
- シュートやフロアチューブの詰まりの除去には必ず棒などを使用し、決して素手で行わない。
- 顔や手足や衣服を可動部に近づけないように十分注意し、カバーなどが付いていても過信しない。

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. バッグを空にする。
4. フロアからチューブを外す。
5. バガーからチューブを外す。
6. 棒などを使用して決して素手で行わないこと、チューブ内部の詰まりを除去する。

注 ほとんどの場合、チューブを揺ると詰まりは解消します。

7. チューブを取りつける。
8. フロアアセンブリが詰まっている場合には、ベルトカバーを外し、フロアアセンブリのラッチを外してアセンブリを開ける。
9. 棒などを使用して決して素手で行わないこと、フロアアセンブリ内部の詰まりを除去する。
10. 詰まりが除去できたら、フロアアセンブリを元通りに組み立て、ラッチで固定する。

バガーの取り外し

警告

エンジン停止直後はエンジンの周囲の機器が高温になっている。高温部分に触れると大火傷をする恐れがある。

- 高温時にはエンジンに触れないように注意すること。
- バガーの取り外しはエンジンが十分に冷えてから行う。

▲ 注意

バガーアタッチメントを外したのに、前バガーウェイトを取り外さずに運転すると、車体が不安定となって制御できなくなる可能性がある。

バガーアタッチメントを外したら、必ず前バガーウェイトも取り外すこと。

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. ステップ 8 バガーチューブを取りつける (ページ 12) から始まる取り付け手順を逆に行ってバガーを取り外す。
4. 組み立ての手順を逆に行ってバガーを取り外すブローアの **取り付け手順** を参照。

注 ブローアアセンブリを取り外したら、必ず、前ウェイトを取り外し、デフレクタを取り付けてください。

▲ 危険

デフレクタや、排出カバー、または集草アセンブリを確実に取り付けずに使用すると、人がブレードに触れたり、ブレードに跳ね飛ばされたものが人に当たったりするなどして極めて危険である。回転中のブレードに触れたり、跳ね飛ばされた物に当たると、けがをするばかりでなく場合によっては死亡する。

- バガーを取り外した場合には、必ずデフレクタを取り付け、側方排出モードにしてからマシンを使用する。
- デフレクタが万一破損しているのを発見した場合には直ちに交換すること。デフレクタは刈かすなどの排出方向をターフに向けるための部品である。
- 機械の下には絶対に手足を差し入れないこと。
- 刈り込みデッキの排出部や刈り込みブレードの近くを清掃する時には必ずPTOをOFFにし、エンジンのキーをOFFにして抜き取る。

移動走行を行うとき

トレーラに積み込む前に、バガーフード後部にあるラッチが掛かっていることを確認してください。

▲ 危険

バガーに刈かすを入れたままで走行すると機体を破損させる恐れがあります。

移動走行時には必ずバガーを空にしておくことしてください。

保守

▲ 注意

始動スイッチにキーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備作業の前には必ずキーを抜いておくこと。

推奨される定期整備作業

| 整備間隔 | 整備手順 |
|---------------|-------------------------------------|
| 使用開始後最初の 8 時間 | ・ バガーベルトを点検する。 ・ バガーの点検を行う。 |
| 使用后毎回 | ・ バガー、バッグ、集草インジケータのインペラを洗浄する。 |
| 25 運転時間ごと | ・ バガーベルトを点検する。 ・ インペラアセンブリを点検する。 |
| 100 運転時間ごと | ・ バガーの点検を行う。 |

バガーとバッグの清掃

整備間隔: 使用后毎回

注 バガーの清掃を行わないと、刈りかすが内部にこびりついてブローハウジングやチューブが詰まります。

1. バガーフード、バッグ、チューブの内側と外側、および集草インジケータのインペラと機体の底部を洗浄する。洗浄には自動車用の刺激性の少ない洗剤を使用する。
2. 硬くこびりついている刈りかすを十分に除去すること。
3. 洗浄が終わったら各部を十分に乾かす。

注 全部の部品を元通りに取り付けたら、マシンを数分間運転して機体を完全に乾燥させます。

バガーベルトの点検

整備間隔: 使用開始後最初の 8 時間
25 運転時間ごと

ベルトに割れ、縁のほつれ、焼けなどの損傷がないか点検してください。破損したベルトは新しいものに交換してください。

バガーベルトの交換

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。

3. 刈り込みデッキを、一番低い設定位置まで降下させる。
4. ベルトカバーのノブをゆるめてカバーを外す。
5. ブローアセンブリを開けて、ベルトとプーリにアクセスできるようにする。
6. スプリング付きのアイドラプーリを引っ張ってベルトのテンションを弱める [図 26](#)。

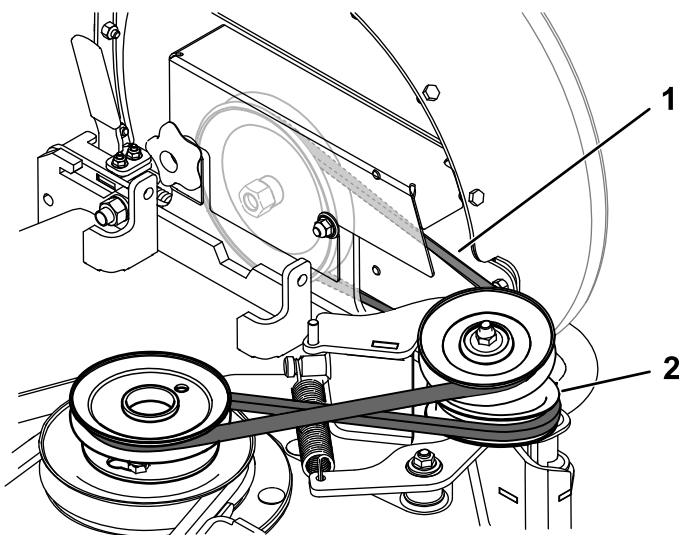


図 26

g256119

1. ベルト
2. スプリング付きアイドラプーリ

7. ブローアのプーリを手で回しながら、既存のベルトを外す。
8. [図 27](#) のように、ベルトをブローアとアイドラプーリに取り付ける。ベルトをブローアのプーリのV溝に

嵌める。ベルトをピンと張りながら、手でゆっくとプーリを回す。

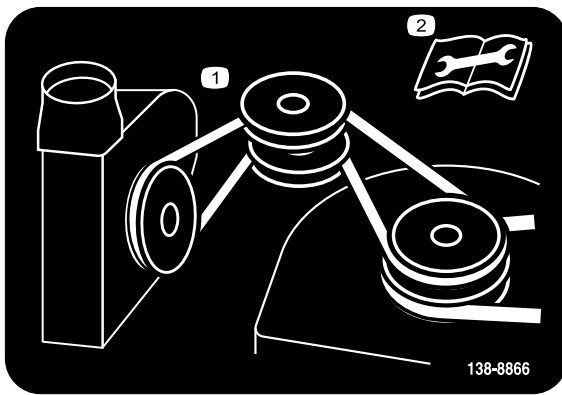


図 27

9. ブロアアセンブリを閉じて、ラッチが掛かったことを確認する。
10. ベルトカバーを取り付ける。

バガーの点検

整備間隔: 100運転時間ごと

使用開始後最初の 8 時間

1. PTO を解除し、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にセットし、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. 上チューブ、下チューブ、バガーフード、ブロアアセンブリを点検する。これらが破れていたり破損していたりしたら交換してください。
4. バッグ、バガーフレーム、スクリーンを点検する。これらが破れていたり破損していたりしたら交換してください。
5. 機体各部のゆるみを点検し、必要な締め付けや交換、修理を行う。

刈り込みブレードの点検

1. 刈り込みブレードは定期的に点検し、また、異物に当たった場合には直ちに点検する。
2. ブレードがひどく磨耗していたり破損している場合には新しいものに交換する。ブレードの整備の詳細については、マシンのオペレーターズマニュアルを参照。

刈り込みブレードの取り付け

ほとんどの場合には、標準のハイリフトブレードが集草に最も相応しいブレードです。

乾いた状態での集草には、トロのアトミックブレードをお使いください。乾燥してほこりっぽい条件の場合には、ミディアムリフトまたはローリフトのブレードを使うとほこりの舞い上がりを抑制しながらうまく集草することができます。

どのブレードを使うのが最も適切かについては、弊社代理店にご相談ください。

ブレードの取り付けの詳細は、刈り込み機械のオペレーターズマニュアルを参照。

保管

1. 芝収納袋アタッチメントを清掃する。 [バガーとバッグの清掃 \(ページ 19\)](#)を参照。
2. バガーアタッチメントに破損がないか点検する。 [バガーの点検 \(ページ 20\)](#)を参照してください。
3. バッグが空であること、また完全に乾いていることを確認する。
4. ベルトに磨耗や割れが発生していないか点検する。
5. マシンの格納は、汚れていない乾燥した、直射日光の当たらない場所で行う。屋外で保管しなければならない場合には、防水カバーを掛ける。カバーを掛けることによりプラスチックの寿命を延ばすことができる。

故障探究

| 問題 | 考えられる原因 | 対策 |
|--------------------|---|---|
| 異常に振動する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ブレードが曲がっているバランスが悪い。 2. ブレード取り付けボルトがゆるい。 3. ブロアのプーリまたはプーリアセンブリがゆるい。 4. バガーベルトが摩耗している。 5. ブロアのファンブレードが曲がっているかバランスが悪い。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ブレードを交換する。 2. 取り付けボルトを締め付ける。 3. プーリを締め付ける。 4. ベルトを交換する。 5. 代理店に連絡する。 |
| 集草能力が不足している。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン速度が低い。 2. バガーのフードのスクリーンが詰まりを起こしている。 3. バガーベルトがゆるんでいる。 4. ブロアやチューブが詰まっている。 5. バッグが一杯になっている。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンは常に全開で使用する。 2. スクリーンを清掃して汚れを除去する。 3. バガーベルトを交換する。 4. 詰まりを除去する。 5. バッグを空にする。 |
| ブロアやチューブが何度も詰まる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バッグが一杯になっている。 2. エンジン速度が低い。 3. 草がぬれている。 4. 草が伸びすぎている。 5. バガーのフードのスクリーンが詰まりを起こしている。 6. 走行速度が速すぎる。 7. バガーベルトが摩耗している。 8. バガーベルトの取り付け方法が間違っている。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. まめにバッグを空にする。 2. エンジンは常に全開で使用する。 3. 乾いているときに刈り込む。 4. 一回の刈り込みでの刈り取り長さを、51-76 mm または草丈の 1/3 以下どちらか小さい方に制限する。 5. スクリーンを清掃して汚れを除去する。 6. フルスロットルでゆっくり作業する。 7. ベルトを交換する。 8. 正しく取り付け直す。 |
| 刈りかすがふきだしてくる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バッグが一杯になっている。 2. 走行速度が速すぎる。 3. 刈り込みデッキの水平調整が悪い。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. まめにバッグを空にする。 2. フルスロットルでゆっくり作業する。 3. デッキの水平調整についてはオペレーターズマニュアルを参照する。 |
| ブロアのインペラが自由に回転しない。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ブロアアセンブリに何らかの障害がある。 2. インペラの心がずれているなど。 3. ブロアのインペラがゆるい。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ブロアのインペラ部分を清掃して汚れを除去する。 2. 代理店に連絡する。 3. インペラの締め具を締め付ける。 |

メモ

カリフォルニア州第65号決議による警告

この警告は何？

以下のような警告ラベルが張られた製品を見かけることがあるでしょう



警告ガンおよび先天性障害の恐れ —www.p65Warnings.ca.gov.

Prop 65 って何？

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへ<https://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all>.

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味していますある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

この法律は全世界に適用されるのですか

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

カリフォルニア州の警告と連邦政府の上限との関係は

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 マイクログラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないとは言えません。

なぜ Toro 製品にはこの警告が表示されているのですか

Toro では、十分な情報に基づいてお客様ご自身が判断できるようにすることがベストであるという考えから、できる限り多くの情報をお客様に提供することとしております。リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、Toro では、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro では、自社の製品に含まれる化学物質の量が「重大なリスクはない」レベルであると認識した上で、あえて Prop 65 警告の表示を行うという選択をしております。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。